

第8回県政知事懇談

湯崎英彦の宝さがし

テーマ【挑戦そして実現！引き出せ広島県の「底力」】

と き 平成22年6月5日（土）

ところ 呉市広市民センター内 広公民館

広 島 県

	目 次	頁
開 会	1
懇 談	1
自由討論	32
閉 会	38

(注) 了承を得られた方については、氏名等を公表しています。

開 会

(知事(湯崎))

それでは、早速始めさせていただきたいと思います。

まず、私のほうから一言ご挨拶申し上げます。

本日御参加いただきました10名の皆様、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、傍聴の皆様も、土曜日にもかかわらず、たくさんお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

まず、この会の趣旨を簡単に御説明させていただきたいと思います。

この県政知事懇談は、県内23の各市町を一つ一つ回って、直接住民の皆様とお話をさせていただいているものでございます。

これとは別に、市長、町長と懇談をする会というのもありまして、そちらは行政としての課題をお伺いする会ということでやっております。

この会は、逆に言うと、住民の皆様がいろいろお感じになっていることを直接お伺いするということにしておりまして、行政が入ると声が届かないという意味ではないのですが、直接いろいろお伺いすると生のいろいろなことが分かることが多いので、こういった形でやらせていただいている次第でございます。

いろいろなお話をお伺いしたいと思っておりますので、この会自体の名前が「宝さがし」となっています。必ずしも宝だけ、つまり、いいところだけ聞かせてくださいという趣旨では全くなくて、日ごろお感じになっているこんないいことがあるということはもちろんおっしゃっていただきたいですし、それプラスこういうことを課題に思っていますとか、こういうことに困っていますとか、そういうことも遠慮なくおっしゃっていただきたいと考えている会でございます。

いただいた御意見等につきましては、意見をいただくというよりもいろいろ話し合いをするというスタイルで進めますけれども、その結果については、何か特定の課題を解決しますということよりは、むしろ皆さんの声として、これまで8回重ねてきているわけですが、皆さんの声をためていって、全体の中で新しい県政を考えていこうとするための基礎にしていこうと考えているところでございます。

そういう意味で、例えばこうですということをおっしゃっていただいて、必ずしも何か実現するということになるとは限りませんが、むしろ長い目で、本当にいい県政をつくっていくための味噌樽に味噌をためていくような印象でいろいろおっしゃっていただければありがたいと思っております。その分、何でも御自由に遠慮されずおっしゃっていただければと思います。これから約1時間半にわたりまして意見交換させていただきますので、なにとぞよろしく願いいたします。

懇 談

(知 事)

それでは、始めたいと思います。

今日もカメラがありまして、皆さん最初は緊張気味で始まることが多いのですが、適宜私も間に割り込ませていただきながらお話をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

順番に〇〇さんから、1人5分ぐらいのイメージでお話しいただければと思います。よろしくお願ひします。

(〇 〇)

倉橋万葉の里健康づくりの会の会長をしております倉橋町在住の〇〇と申します。今日はよろしくお願ひいたします。

倉橋万葉の里健康づくりの会は、呉市保健所の指導のもとに平成20年2月に立ち上がりました。こういった活動をしているところは呉市内でたくさんあるのですが、本当に立ち上がったばかりの私がこの席でお話をするというのは非常に恐縮に感じております。

今、会のほうでは運動普及推進員が19名おります。

(知 事)

運動というのは、エクササイズの運動ですね。

(〇 〇)

そうです。その19名が地域住民の方の健康づくりに何かお役に立ちたいということで、ウォーキング大会とか体力測定教室、それから健康づくり講演会など、そういった行事を計画して実施しております。

(知 事)

地区はどれぐらいが対象になっているのですか。

(〇 〇)

倉橋町全体。

(知 事)

旧倉橋町全体ですか。

(○ ○)

そうですね。また、呉市内の方々にも参加を呼びかけますので、是非倉橋のほうに参加したいということで、遠くのほうからも、呉市内の方だったら参加されていますし、江田島市内のほうからもこういったことがあると聞いたということで参加されております。

昨年度参加者が321名ほどいました。それは延べ人数です。私たちがやっていることが地域の方々みんなに大きな関心を持って見ていただくとはまだ言えていない、周知されているとは言えないと今思っております。

今年度少しでも関心を持ってもらえるために、ほかの組織と共同で実施しようということで、ウォーキング大会のときにごみ追放の活動を一緒にしたり、それから、食事改善のために活動されている組織があるのですけれども、その方が食事改善の活動をしているときには私たちが運動の面でかかわっていきこうということで計画をしております。

また、日常的な活動では、倉橋のほうで大きなイベントである宝島くらはしフェスティバルというのがあるのですが、そのときに健康体操を紹介したり、各自治会区で実施しております地域サロンというのがあるのですが、そこに運動普及推進員が行きまして少し健康体操を紹介したりとか、また今は月に1回、海と暮らしを守る会という会が主宰して海浜清掃とか松林を清掃しているのですけれども、その後、健康体操をさせていただいて、皆さんに運動を普及している状態です。

また、今そういった形であまり十分参加者も、延べ321名程度ですので、今年度はやはり運動普及推進員のみんながセールスマンの役目をして普及に努めて、少しでも健康づくりのために貢献できる組織としてありたいと思っております。私たちがやっていることは以上です。

(知 事)

ありがとうございます。いろいろな場を通じて普及をされているということですが、その活動の中で今どんなことを感じていらっしゃるでしょうか。

(○ ○)

やはり私も積極的に自分からという始め方ではなかったのですが、やっているうちにたくさんの方とかかわって、運動する楽しさというのを私も教えていただきましたし、本当に初めは敷居が高かったのですけれども、今はやってよかったなという思いでおります。そういった仲間をこれから少しずつ増やしていきたいと思っております。

(知 事)

活動を通じて、自分自身で運動の楽しさとか大切さみたいなことを改めて感じるように

なられたと。

(○ ○)

そうですね。

(知 事)

人のためにやっていたら自分のためにもなったという、そういうことでしょうか。

(○ ○)

そうですね。ちょっと提言と言えるほどのものではないのですが、今、非常に少子高齢化で様々なところで疲弊している地域があるのですが、元気なところは、今ある人を生かして、その中で創意ある活動をしておられますよね。何かをし遂げるときには、物、人、金ということが出てくるのですが、私はやっぱり人というのが一番大事にされなければいけないと思っているのです。お金がなくても、今は非常にいろいろなところで財政難と言われているのですが、人を生かすということとか、人の持っている知恵を引き出していくということを非常に大事にして県政を進めていただきたいと思うのです。

私も 38 年間勤めていた職場を退職しまして 4 年目になりますけれども、やはり現役を退職された方は、団塊の世代ということで、非常にたくさんこれから増えてくると思うのですが、そういった方の底力をしっかり活用する。人材の活用というのが非常に大事になってくるのではないかと考えております。

自分で組織をつくって、立ち上げて、さあ活動しますよということに対しては非常に皆さんハードルが高いのですが、一人一人聞いてみたら、社会貢献したいという思いは非常に強く持っておられますので、是非人を生かしていく。そういったことが大事なのではないかと私は考えております。

(知 事)

ありがとうございます。高齢者の方々の社会参画というのは、県でももちろん大事なことで、だと思っておりますし、人というのは、まさにおっしゃるとおりで、特にお金がないからこそ、今、もう一度人の大事さというのを皆さん認識されていると思います。

私も五つの挑戦というのを掲げておまして、人づくりというのを一番最初に挙げているのですが、何をやるにしても人の力というのが一番のもとです。お金はどの 1 万円札も 1 万円なのですが、人はそれぞれ違うので、そこはおっしゃるように大事にしていけたらと思っています。ありがとうございました。

(○ ○)

ありがとうございました。

(知 事)

それでは明神さん、お願いいたします。

(明 神)

はじめまして。よろしくお願ひいたします。私はNPO法人の呉サポートセンター「くれシェンド」という団体で事務局長をしております。個人的には3歳の男の子の母親もやっております。

私どもの団体の活動としては、大きく分けて二つなのですが、一つはボランティアの支援ということで、ボランティアをしたいと思っている個人の方であったり、既に活動されている団体の方であったりのコーディネートであるとか、相談支援のような形の業務をやっております。ちょうどこの会場の4階に「くれ市民協働センター」というボランティアセンターがあります。そこの運営の企画を担っているというのが一つあります。

もう一つ、まちづくりの活動ということで、様々なメンバーがいますので、得意な分野で、例えばバリアフリー研究会という研究会を立ち上げまして、バリアフリーのまちづくりを考えたり、子どもとの自然観察会の活動をしたり、地域のまちづくりのワークショップを担ったり、そのような活動をしております。

この団体が発足してからこの4月でちょうど10年になるのですがけれども、発足時から10年かかわらせていただきまして、その中で、〇〇さんのお話にも出たように、一番は人だなと。まちづくりを課題にずっと活動をしていたのですがけれども、やはりマンパワーというのが一番重要なキーワードになっていて、活動していく中で今でも課題としてあるところが、例えば何かをしたいと思っている方、若い方でも年配の方でも、心の中で何かまちのためにしたいと思っている方にどのように情報を提供するか。マッチングといいますか、やりたいと思っている方にやりたいと思えることができるような環境づくりというのを常に課題と感じながら模索しています。

最近では情報もいろいろと発信しやすい時代になりました。

(知 事)

インターネットとかですね。

(明 神)

そうですね。インターネットもありますし、ブログであるとか、ツイッターなども最近よく聞く言葉ですし、そういった新たな情報発信のツールなどを使って、なんとか若い世

代の方に情報を届けたい。メールマガジンなり、そういったことをこれから検討していきたいと思っております。

(知 事)

ありがとうございます。何かしたいという意欲ある人が一歩踏み出せるように、後押ししてあげるとい活動だと思っておりますけれども、そういう方々というのは、この10年やっていらっやって増えてきたとお感じになりますか。それとも、あまり変わらないとか。

(明 神)

団体さんからの悩みというのは、メンバーが減ってきているとか、メンバーがそのまま高齢化していて団体の存続が難しいとか、そういう御相談はよく受けます。ただ、感じているのが、実際にまちに関心を持っている人たちが少ないのかということ、実はそうでもないのではないか。若い方でも何かしらまちに愛着を持っていたり、やりたいと思っている方が減っているとは感じていないです。だから、うまく情報を届けられればきつとうまく回っていくのではないかと感じています。

(知 事)

まさにくれ市民協働センターでやっておられるような、ボランティアを発掘していくということも含めてなのでしょうね。関心あるところを御紹介したりとか、そういったことを通じて参加する人を増やしていく、そういうことですね。皆さんの貢献したいという気持ちはあまり変わっていないみたい。

(明 神)

と思います。あと一つだけ、今、一番大事だなと思っていることが、やっぱり自分たちのまち、広島県、私たちでいうと呉市、自分たちが住んでいるまちをまず好きになること。愛着を持って、誇りを持って、自慢できることがまちの活性化の第一歩だとずっと思っております、なので、それを若い世代の方よりもさらに子どもたちへ伝えていく何か、本当に宝さがしという言葉そのままだと思うのですけれども、そういったことを頑張りたいと思っています。

(知 事)

ありがとうございます。

それでは、〇 〇さん、お願いします。

(○ ○)

私は呉市安浦町でカキをやっている○○といいます。父がカキをやって、私が後継者としてやっていく中で、まず安浦のカキを PR したいために、安浦漁協青年部若部海を結成いたしました。若部海を結成するのにみんなと相談して、まず、安浦にはアマモという漁場があります。

(知 事)

アマモですか。

(○ ○)

はい。漁場の中にきれいなアマモが生えています。なかなか広島県でも育っていないアマモがありまして、安浦には野呂山とか野呂川とか、きれいな山とか川があります。そういうのも大事にしながら、漁場清掃や、それを分かっていたくために、水産課の人たちと一緒に子どもたちに水産教室を開きました。水産教室を開いて、もっとカキを PR しないといけないということで、3 年前にカキ祭りを立ち上げました。最初は私たち若部海のメンバーが主体でやっていて、今、3 年目になりますが、もっと安浦のカキの特徴を県内や県外の人に。

(知 事)

どんな特徴なのですか。

(○ ○)

海がきれいなので、まず生食、生で食べれるということ、甘みが強いということですね。それを PR するためにカキ祭りを実施してきました。2 年目とか 3 年目には、まちづくり協議会の方とかいろいろな食材を持っている人、特に安浦の特産品、変わったものを料理しながら売って見たらどうかということで、行政の方々とか皆さんと企画会議をしまして、今、3 年目ですけれども、今年の 2 月の第 4 週目に約 8,400 人ほど、県外からもたくさんの方が来られました。これは私たちもびっくりしているのですけれども、やっぱりカキのイベントというのはたくさんいろいろなまちで。

(知 事)

何日間で 8,400 人ですか。

(○ ○)

1 日です。朝 9 時から大体 2 時ぐらいまで。

いろいろなまちでカキ祭りをしていますけれども、特徴を出していきたいということで、いろいろな安浦の特徴のあるカキ祭りをしています。

その中で感じてきたものは、やはりカキ屋さんだけが考えるのではなくて、行政の方とか、カキなどの水産物以外の農家の方とか、商工会の方とか、いろいろな業種の人に相談して企画しながら考えていくというので、まず人との交流ができるようになりました。それで、私たちがこれをしていくうちに、安浦町でもやっているのですけれども、広島県の方々と何とか話ができる場を設けてもらいたいというのがあります。

(知 事)

広島県というのは、県庁の人間ということですか。

(○ ○)

そうですね。県の人たちとか行政の方、呉市の人、今までやってきたメンバーとか、話をする場を設けてもらいたいです。それは何でそうするかというと、私たちはやっぱり県外に広島県のカキをもっと PR したいということで、生産者自らが現地に行って、料理の実演とか、カキ屋さんがこういうカキはこうだとかいろいろ。

(知 事)

カキを愛していらっしゃるから、それが伝わりますよね。

(○ ○)

そうですね。カキだけではないのですけれども、呉市の水産物も一緒にやっていく場が何とかできたらと常に思っているのですけれども、県外とか、例えば首都圏に出て行くということになると、なかなかノウハウがないもので、なんとか県政の方に話ができる場を設けてもらいたいというのがまず一つのお願いです。

それと、PR をして販路を拡大したいのですけれども、イベントをするには、たくさんの人とお話をする場をして決めるのですが、やっぱり私たち個人経営で、なかなか思いっきり出ていく場が難しいので、そこら辺のところも、みんなと話をする機会を県の方とか呉市の方に。

(知 事)

それをもうちょっとかみ砕いて言うと。思いきって出れないというのは。

(○ ○)

やっぱり知っている人がいない。県の人と交流したり知り合う機会が少ないので、私た

ちからお願いするのは、県の方とか呉市の方とか、私たちのメンバーとかと話をする場を設けてもらって、いろいろなアイデアが出る場をまずはつくっていただきたい。これはカキだけではなくて、水産物とか農産物とか商工会の方々でもいいので、そういう場を設けてもらいたい。よろしく願いいたします。

(知 事)

ありがとうございます。御自身、若部海の皆さんで動かれて、カキ祭りもやられて、たくさんの人を集められたというのはすばらしいことだと思うのです。結局、行政ができることというのは限りがあって、そうやって実際に生産者の方だとかが動かれて初めてものごとは伝わっていったり、効果が出たり、そういうものだと思うのです。ですから、本当に〇〇さんがやられているような、あるいは若部海がやられているような活動はすばらしいと思います。

県のスタッフとお話をされたいということなのですから、これは何か拒否されたとか、そういうことではないですね。

(〇 〇)

いえいえ、まだ立ち上げて3年なので、そこまでの、勉強不足というか。

(知 事)

いやいや、勉強も何も、電話をいただければ嫌だとは多分言わないと思います。あと、呉市の普段お付き合いのある行政の方経由でももちろん結構ですし、そこはいろいろな考えがあって、地域振興的な考えで入ることもあれば、農林水産業の振興という考えで参画することもできますけれども、それは特に大歓迎ですから。

(〇 〇)

できれば、水産業界だけではなく、まちづくりをメインとして、いろいろな方々、業種の人と話ができる場を呉市の方とか、私は呉市なので。

(知 事)

ほかの人も含めてですね。そこは呉市とお付き合いがあると思うので、県の間、こんな人がいいと言ったら呉市から連絡がすぐ来ますから、ご遠慮なく。

(〇 〇)

それで、県外のイベントができればと。将来的にはです。

(知 事)

実際に今年は広島カキのブランド強化事業というのをやっていますし、いろいろなところに行って PR 活動をやっていますし、私も今年の2月だったかな、広島市の本通りで広島カキの PR をやったのです。あのときは江田島のカキの業者さんが来られていたと思いますが、そういうこともやっていますし、県外でもやろうとしていますので、そういうことを活用したいというのを是非、市を通してでも、直接というところまでここに電話をすればいいのか分かりにくいかもしれないので、それは市に御相談いただいたら、そこはちゃんとやってくれると思います。是非よろしくお願いします。

(○ ○)

どうもありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございました。

それでは、北村さん、お願いいたします。

(北 村)

こんにちは。呉市川尻町からやって参りました北村と申します。私は、今朝知事さんが行かれた豊町の久友というところで生まれたのですが、そこから川尻町に移り住んで、農業と造園業をやらせてもらっています。そういった関係で農業委員もやらせてもらったり、川尻町の中の団体協議会とかいろいろなところに顔を出させてもらっています。

取組みなのですが、川尻町に平成元年にできた川尻町平成会という任意団体があります。

(知 事)

平成会ですか。

(北 村)

はい。今、そこの副会長をやらせてもらっています。川尻町は筆が有名なので、筆を供養する筆塚というのが野呂山の頂上にあるのですが、そこの周辺の草刈りとか清掃とかやらせてもらったり、川尻町のグラウンドがあるのですが、そこができたばかりで木陰がないというので植樹の作業をしたり、清掃をしたり、そういうボランティア活動とかもやっております。

それとか、今年は4月だったので、野呂山山開きというイベントがあります。そのときに川尻町平成会という会で写生大会をずっと10何年やらせてもらっています。

それはちっちゃい子どもから大人まで参加していただくのですけれども、これが大変人気がありまして、大体 150 人から 200 人ぐらいその写生大会に参加してもらって、ちっちゃい子どもさんなんか景品もサービスであげたりするので大変喜んで、1 ヶ月ぐらい展示をして、一月後に表彰式をして、豪華賞品をあげたり、そういったボランティア活動もしております。

農業委員としての活動なのですけれども、川尻の小学校に食農体験ということで4年生、5年生、6年生の高学年に田植えとか稲刈りなどをして、稲刈りもかまで一株ずつ刈って、はぜにかけて天日干ししたものを給食に使うなどして、4年生と6年生はタマネギとかサツマイモとかをつかって食の大切さみたいなものを教えたり。

(知 事)

大変さですよ。

(北 村)

はい。提案なのですけれども、そういった関係で川尻にいて、川尻は野呂山が有名です。知っておられますか。

(知 事)

もちろんです。

(北 村)

この野呂山というのは瀬戸内海沿岸で六甲山に続いて二番目に高い山なのです。

(知 事)

そうなのですか。それは知りませんでした。

(北 村)

大阪からずっとこちらの瀬戸内海沿岸沿いで一番高いのが六甲山で、その次に高いのが野呂山、839m あります。

(知 事)

そうですか。しかも、海の近くにぽんと出ていますからね。

(北 村)

そうです。六甲山は海から頂上まで大分距離があるのですけれども、川尻の野呂山は海

から頂上まですぐなのですが，そういった景観が素晴らしいです。今日行かれた下蒲刈とか蒲刈とか豊方面，遠くは四国，愛媛県，よく晴れた日は香川県のほうまで見えるという，そういった景観を取り組んで県もちょっと PR していただいて，景観が素晴らしいというのをアピールしてもらおうと，地域の活性化につながったりするのではないかと。

僕が経験した中で一番すばらしかったのが夜景なのですがけれども，知事さんは月を下に見たことはありますか。

(知 事)

いや，地球より遠くに行ったことはないです。

(北 村)

いやいや，それがですね，野呂山を川尻からずっと上がっていくと，ここにもいらっしゃるのですがけれども，豊町と大崎上島の間から満月が出てくるのですがけれども，それが下に見えるのです。

(知 事)

そういう意味ですか。下の感覚なのですか。

(北 村)

そうです。自分の目線より下です。お月さんというのは見上げるのが普通だと思うのですがけれども，それが下に見えるのです。

(知 事)

普通，高い山に登っても上から出てきますよね。

(北 村)

そうですね。絶対山の陰とか，ああいったところから見えるのですがけれども，野呂山に上がると目線より下から満月のお月さんが上がってくる。それで，夜景が素晴らしい。

(知 事)

水平線から上がってくる感じなのですか。

(北 村)

そうです。だから，水平線より頂上が高いので，そういったのを知らない人もたくさんいると思うので。

(知 事)

いやいや，知りませんでした。

(北 村)

そういった多島美とか景観とか自然のすばらしさというのはお金がかからないので，ただじゃないですか。そういったのを広島県としてももう少し PR していただきたいというのが提案でございます。

私，広島県立の呉商業高校の P T A 会長もやらせてもらっているのですけれども，ここで聞きたいことが一点あります。

広島県立高校の中の自動販売機を来年度から県の管轄下に置くということになっていると思うのです。

(知 事)

はい。

(北 村)

私どもの呉商，よその学校もそうなのですけれども，管轄が今は P T A のものだと思うのです。私ども呉商は P T A が自動販売機を運営しているのですけれども，ただ，自動販売機だけだったらいいのですけれども，P T A の活動として食堂経営とか売店経営もやっております。その中で普通だったら食堂経営が赤字なのですけれども，自動販売機の売上げで補填をしているような感じで，ひっくるめての収支決算をしております。それでも少し赤字になっているのですけれども，そこで，その自動販売機を県の管轄下に置かれて，全部県のものですよと言われた場合，学校の P T A の食堂運営が立ちゆかなくなってしまう。そうすると，食堂にパートのおばちゃんらを 3 人ほど雇っているのですけれども，辞めざるを得ないようになってくる。県の土地に置いているのだから県のものよというの分かるのですけれども，今まで一生懸命そういった感じで苦勞してきた P T A のものをどうにかして助けていただけないか。補助的なものでもいいですし，免除してくれるとか，そういうことができないかと思ってちょっとお伺いしたいと思います。

(知 事)

まず，PR という点なのですけれども，今まさに，なかなか野呂山だけ県がやりますというわけにはいかないのですけれども，御存じのとおり海の道プロジェクトをやっていまして，瀬戸内海全体を PR していこうということで，瀬戸内海のいろいろないいところをもっと連携させながら PR していきたいと。

(北 村)

僕が思っているのは、呉と今朝行かれたとびしま海道などを含めたものを PR していければと思うのですけれども。

(知 事)

そこだけとおっしゃらず。

(北 村)

一応呉市なので、呉市を PR するために。

(知 事)

もちろん、呉の部分だけというところは呉市に力を入れていただければと思うのですけれども、私としては呉だけでやってもやっぱりお客さんはこないと思うのですよ。宮島もあれば、呉もあれば、呉には大和ミュージアムもありますし、野呂山の景色もあるし、とびしまの、今日もサイクリストの人がたくさんいらっしゃいましたし、筆影山もあれば、そういういろいろな力をあわせることによって本当に地域の力はもっと上がっていくと思うので、そういうふうにしていきたいと思っています。プラスその中での競争は呉市にも頑張っていたきたいと思うのですけれども。

それと、今の自動販売機の件は、今、県庁のほうでどういうことをやっているかという、これまで共済が持っていたものを直接競売にかけるような形で。

(北 村)

競争入札ですね。

(知 事)

はい。やっていただいているのですけれども、ものすごく収入が上がるのです。またそれをどういうふうにするかということも含めて、それはいろいろ慎重に考えていく必要があると思いますので、今、PTAがどういうやり方をされているか分からないのですけれども、特に高校の運営ということでもありますので、そこはそういった御意見も含めてちゃんと考えていきたいと思っています。単純にやめるということではなくて、むしろ、よく考えないといけないのは、そういう競争入札的にやれば、そこですごく収入が増えるので、それをどこに使うかという問題なのだと思うのです。それは学校にももちろん還元するとか、あるいはほかのことに使うとか、PTAの活動に使うとか、いろいろなものがあると思いますので、それをよくよく話し合う必要があるだろうと思います。

(北 村)

だから、それをいったん県のほうに吸い上げられると、その後、それだけ分が県から補助がおりてきて食堂運営とかできるのかというと、まず分からないですよ。

(知 事)

ですから、そこはよくいろいろお話をしながら進めていくことだと思っています。

(北 村)

頭の隅にでも入れておいていただいて、鶴の一声でも言っていただければ。

(知 事)

それはきちんと教育委員会に伝えておきますので。

(北 村)

最後に一つだけ、一応湯崎英彦の宝さがしという題目があって、書類の中にも広島県の底力を発掘するとか、底力を出してということだったのですけれども、底力を出すにはやっぱり体力が要ると思います。体力がないのに底力を出せと言うとしんどいものがありますので、その体力をつけるために、広島県は何か施策をしていかななくてはいけないのではないかと考えております。絞りきったぞうきをまだ絞れというような感覚ではないようにしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(知 事)

はい。その体力というのは。

(北 村)

底力を出すためにはやっぱり体力というか、活動する、動くには体力が要ります。

(知 事)

物理的な体力ですか。

(北 村)

そうですね。だから、病人に底力を出せといっても出ないですし、元気な人に底力を出せと。元気にするためにはご飯もいっぱい食べないといけないという意味です。今、経済状況も悪いですし、だから広島県も一生懸命になっているというのはよく分かるのですけれども、そういった面でこういった宝さがしにも回っておられると思うので、頭の隅でい

いです。覚えておいていただければと思います。

(知 事)

はい。ありがとうございます。

それでは、楠さん、よろしく願いいたします。

(楠)

私は豊町の楠です。私は19年間サラリーマンをやりました、それから平成3年より1.6haの柑橘経営を行って、また、たまたま農協のほうの常務を2年前から担当させてもらっております。住民としては、子ども会から小中学校のPTA会長、消防団、祭りの実行委員とか、中山間地の支払事業というのがありますが、その役員とか、いろいろ行政と一体になって少しでも住みやすいまちづくりをと今までやってきました。

特に呉市との合併後もいろいろ予算が削られているわけですが、豊町振興会を中心に、豊町時代のいいことはなるべく残そうということで、明日は町民一斉の防災デーということで、半日間ごみ掃除をしていただきますし、また来週は町民運動会ということで、9地区で約600~700人の町民の参加をいただいて、半日間町民運動会をやったり、7月には花火大会、あと敬老会とか成人式とか、そういうのはほとんど自治会とかその下の体育協会ですとか、いろいろな各グループと自治会と行政が一体になってそういう行事を今までと同じような状態で維持もしてきております。

それで、私は観光協会の役員もしておりますが、観光協会のほうもだんだん予算が減っております、役員はいろいろな職業を持っておりますので、その職業の機械ですとか能力を生かしまして草取りですとか、桜の苗木を植えたり、また、案内の看板が大変少ないものですから、そういう看板づくりをしたりして、少しでも観光地として御手洗が皆さんに喜んでいただけるような活動を現在やってきております。

それで、今度は私のほうの提案になるわけですが、安芸灘大橋が開通して1年目は大体これまでの6倍の12万人お客さんがいらっしゃったのですが、今、2年目はかなり減っております。なぜ減ったかといいますと、まずリピーターがいないということと、やはり橋代が高いと言われるのです。特に私は農協でミカンを毎日売っているのですが、ミカンは安いんですが、橋代を計算したらやっぱり高いわねとよくと言われるもので、できたら橋代をただとは言いませんので、せめて半額ぐらいにしたら、また観光客の方が増えるかどうか、期間限定でもいいですが、民主党みたいに再々変わらないように、少し試行していただいて、それで通行台数をまたチェックしていただいたらよろしいのではないかと一つ提案をしたいと思います。

もう一つ、うちの場合は上島というところにミカン畑をたくさんつくっています。フェリーというのが1年前になくなるということで、これもまた問題になったのですが、今は

呉市なり、県も一部補助をいただいて、農協も補助をして運行しているのですが、一応農家のほうはまずまず支障なしにうまくいっているのですが、今度は大型トラックとか観光バスは船が小さくなりまして、バスの底と栈橋が当たるのであまり乗らなくなっているのです。バスは、乗っているお客さんも一回降りて、人間だけ船に乗って、底を高くして乗らないとフェリーに乗れないということになっておりまして、上島と大三島へ行くいわゆる観光コースにかなり支障が出ています。そういうことで、その辺もできたらもう少し大きいフェリーを運行するようなことも考えていただかないと、軽トラックとか1トン車ぐらいはそれで間に合うのですが、そういうことでちょっと大きい車には支障が起きております。

それと、今日見ていただいた御手洗地区なのですが、特に閉鎖されている若胡子屋は、呉市が今年から建物の補強を行うようになっていますが、あの建物だけでは中ががらんどろで、とても観光の目玉にはなりません。1回は来て見ていただくのですが、2回、3回と来て見ていただくにはあまりにも内容が乏しいので、できたら歴史的なもっと展示物やっただくとか、今日聞いていただきましたが、三味線を弾く体験ですとか、おいらんの服を用意してしましてそれを着るのを体験していただくとか、そういう体験コーナーというのもつくっていただいて、もう少しあそこの中を充実した施設に、呉市とともに、県の施設でありますので、両方をお願いしたいと思います。あのままではせっかく重要な建物なのですが、十分生かされていませんので、江戸時代の情緒ある建物とか雰囲気但至少でも感じていただけるような施設をお願いしたいと思います。

それと観光地としてトイレが大切なのですが、今は7~8人用のトイレが3カ所ぐらいに分散してあるだけなので、観光バス1台来られたときに、大変観光客の方に御迷惑をかけております。トイレがないじゃないかと、これもお叱りを受けております。これは橋がかかる前からいろいろ行政にはお願いをしているわけですが、なかなか場所的なのですか、予算もないということで現在に至っております。これも観光客の方に気持ちよく来ていただくにはトイレが必要と思いますので、観光地としての最低限の施設だと思いますので、その辺、施設の設置なりを提案したいと思います。

それと、私は島にいますので、塩害といいますか、異常潮位ですとか、台風のときには大変被害を受けています。60年前はこんなに島は沈んでいなかったと思いますが、県道より50cm以上家が低くなっているのです。そうすると、潮が上がると家の中にすぐ入って床下浸水になっています。これもなかなか土木工事が大変なのですが、異常潮位と台風のときにどうしても防波堤がないと、なかなかそれが防げません。ただ、私が住んでいる○○地区というのはおかげさまで3mぐらいの高さの防波堤をつくっていただきまして、まだ台風が来ていないので最終的に効果がどこまであるか分かりませんが、かなり対策はしていただきました。ただ、よその地区はそういうことをやっていないので、台風が来たり異常潮位になるとすぐ通行止めになったりとか、住宅にすぐ床下浸水をしてかなり被害を

受けておりますので、その辺も、島全体になんとかそういうことも考えていただきたいと思います。

それと、最後に私の専門の農業面なのですけれども、イノシシが大変増えておりまして、駆除に大変困っています。この前、平成 15 年に県の補助金をいただいて、島延長 35km のイノシシの柵をしたのですが、イノシシが毎日来てそれを壊してしまうのです。そこから入ってミカンを食べたり、木の枝を折ったりして、被害が大変出て困っているので、イノシシをある程度減らさないと、なんぼ塀をつくってもそこを破ってきてしまいます。豊町の場合は特に猟友会が 3 名しかいらっしやらないので、とても 3 名の方では退治しきらないということがありますので、もっと豊町以外、呉市、または広島県全体でなんとかイノシシの駆除を、よその島も一緒ですが、もっと広域な組織で駆除していただけないかということを考えていただきたいと思います。

最後になりますが、広島県が 2 品種ほど新しい広島県の柑橘を、新しい品種をつくっているのです。ですから、それを早く私どもに渡していただきたいし、またそれを有名にするために先ほどありますようにマーケティングといいますか、そういう宣伝もしていただいて、また、県の特産品づくりを一つでも二つでも増やしていくことをお願いしたいと思います。

以上でいろいろ申し上げましたが、よろしくお願いします。

(知 事)

ありがとうございます。やっぱり地域に深くかかわっておられるので、今の若胡子屋のお話にしても、トイレのお話にしても、地域でこういうことか必要なのだ、こういうアイデアがいいんだというところが一番よく分かると思うのです。ですから、そういうアイデア、今日もいただきましたけれども、もう少し具体的にいろいろ練っていくことになると思いますので、それこそ呉市とも連携をしながら進めさせていただければと思いますし、高潮対策については、これは順次今、進めておりまして、なかなか一遍にできないので大変なのですけれども、これが命と財産を守るということで着実に進めていきたいと思っております。

あとは、イノシシは県内全体の大きな課題でして、猟友会の皆さんは本当に数が足りていなくて、しかも、山が荒れて、食べ物が少なくなって、イノシシがそうやって里におりてきていろいろなものを荒らすという状況が起きています。さらにそれが海を泳いで渡って島へ行くという、そういうことになっていまして、これはもうおっしやるとおり大変なことになっています。それについては、今年も補助を出して進めようとしているのですけれども、なかなかそういった人手が足りない部分も。

(楠)

ですから、まだ私も罾の免許を持っていて、捕まえられるのですが、捕まえる人間がいない。スタッフが足りないのです。私もミカン時期の秋の一番忙しいときにイノシシを捕まえないといけないので、なかなか忙しいのです。二つの仕事をやらないといけないので、結局地元の人の、捕まえたいけれども、捕まえられる人間が。

(知 事)

抜本的な対策があればいいのですけれども。

(楠)

県の公務員の方で体力がある方とか、そういう方にボランティアに来ていただくとか、結局、鉄砲を持つことにもいろいろな規制があったり、お金がかかるので、それが大変なことなのです。

(知 事)

そうなのですね。今、深刻な事態だというのは認識をしています。

あと、柑橘のほうも、これはまだどういう状況で農家の方にお渡ししていないのか、にわかには分かりませんが。

(楠)

今は登録ということで、国に登録中なので渡せないのです。ですから、もう 2~3 年したらいただけるので、それまでにどんどん準備をしていっていただきたいということです。

(知 事)

はい。

あと、橋のお話はなかなか大変でございまして、御存じのとおり何と言っても 500 億円ぐらいかかっているものですから、これを完全に無料にすると、100 億円まではいきませんが、90 億円弱ぐらい財政に穴があくのです。今、90 億円の予算ってどこもないのです。なので、これはなかなかわかには難しいと思っているのですけれども、いろいろな工夫の余地はあるかもしれないので、それはいろいろ頭の体操をしてみたいと思います。ありがとうございました。

それでは、森川さん、お願いします。

(森 川)

はじめまして。豊浜町豊島から来ました森川と申します。僕は豊浜町の青年連合会の一

員としてスポーツの活動や、あと豊浜の地域のイベントごとに参加をしています。

スポーツの中でも特にサッカーチームを豊浜の若者、と言いましても15歳から45歳、若者でない人もいるのですけれども。

(知 事)

いやいや、45歳は十分若者です。

(森 川)

幅広く年齢を集めて行っています。

イベントのほうなのですけれども、特に今大きいのでは、去年と一昨年、豊浜出身の今は東京で活動しておられるバンドの方がおられるのですけれども、その方が豊浜町を盛り上げるために野外でライブイベントをやりたいという意見がありまして、僕ら豊浜町青年連合会としてそのイベントの運営や、実行委員会として協賛金を集めたり、ステージの設営とか当日の警備、観光客やお客様を移動させたり、ライブイベントのスタッフとして活動したり、先ほどおっしゃられた豊町の花火大会のときに露店を出してちょっとお金を儲けたり、そういうことをして盛り上げています。

県政についての提言というのは、僕も県政について詳しいわけではないですし、なかなか難しい質問なので、地域の人に聞いてきました。

先ほども言われた橋の料金のことは真っ先に言われました。何とかしてもらってこいと言われたのですけれども、僕に言われてもどうしようもないと思うのですけれども、正直高いのは高いですし、料金が下がれば蒲刈なり豊島、御手洗、豊町からでも本土に仕事に行く人も増えると思うのです。そうすれば、過疎化に対しても若い人が帰ってきて人口が増えるのではないかと思いますし、観光客の方も高いと言われる方は多いです。先ほど言ったサッカーチームでも、今は呉のチームと合同でやっているのですけれども、その人たちが豊島に練習に来てくれるときも、橋代が高いので回数は来れないという意見はよく聞きます。先ほど難しいと言われていましたけれども、半額でも、ちょっとでも安くなればいいなと思っております。

もう一つは海の道プロジェクトです。これは実際どういうことをしてくれるのかというのが自治会の方とか、御手洗の上司の方に聞いても分からないので、それも聞いてもらって来てくれと言われました。実際、豊浜に橋がつきまして2年たって、観光客の方も増えましたし、釣り人がものすごく増えました。夜、車が走っている台数もすごく増えました。深夜でもどんどん車が走っていたり、釣り人が路上に釣り竿を出して釣りをしていたりと、地元の間人が通るときにも危ないなと思うことがすごくあります。なので、これは僕の意見なのですけれども、観光客が増えてまちが豊かになったり、みんなに広島県や瀬戸内海のことを知ってもらおうのはすごくいいことなのですけれども、昔からある島の雰囲気や、

仕事で郵便を配っているのですけれども、ポストがなくて玄関を開けるときの、留守でも家が開いている。防犯上はよくないのですけれども、みんな周りが知っている人だから誰も泥棒には入らない、そういう人は来ないという昔からの雰囲気というのがありますし、夕方になれば海辺におじいさん、おばあさん、みんなが座って話をしている。そういう昔からの雰囲気が実際自分も住んで働いてみてすごくいいところ、好きなところなので、観光面で人が来ることはすごくいいのですけれども、その分防犯もしっかりしていただいて、昔からの雰囲気を失わないようなまちづくりをしていただけたらいいなと僕は思いましたので、ここで意見として言いたいと思います。

(知 事)

ありがとうございます。ちなみに、これは県政に対する提言を書いてくださいということになっているのですか。そういう指示になっているのですか。

(森 川)

アンケートに提言というのがありまして。

(知 事)

無理矢理提言というのを考えていただかなくても大丈夫でして、むしろ普段感じていらっしゃることをおっしゃっていただければ結構なのですけれども、そうなっているのですか。

(事務局)

提言がございましたらと書いているのですけれども。

(知 事)

そう書くとそうしてくださいとなってしまうかなという気もするので、もちろんいただいても結構なのですけれど。

ただ、今のお話はいずれにしても大事なお話ではあって、橋の料金にしても、観光客が与える影響にしても、私などは観光客が増えることの大事さというのは、もちろん知ってもらい、自分の好きなまちをほかの人にも好きになってくれるというのはすごくうれしいことなので、それ自体もちろんいいことだと思いますし、プラス、そこでお金を使っていたくと、さっき露店をやられてちょっとお金を儲けると言われましたが、結局それをまたまちづくりに還元していくわけですね。そういうお金を使って、また、まちの活性化に結びつけていくということが大事なことだと思うのです。そこで観光客の人というのは地元のことを知らないわけですから、地元のルールは分からなかったりするわけですね。

これは僕の意見なのですけれども、そこで地元のことが分かるのは地元の人なので、観光客の人たちに気持ちよく過ごしてもらおうと同時に、地元のルールを守ってもらおうとか、釣り竿をこんなふうに出さないとか、そういうことは地元の人が伝えていかないと、なかなか分からないことではないかという気はするのです。こう言うと生々しいのですけれども、いかにお金を落としてもらうかという仕組みを考える。これも地元じゃないとなかなか分からないところなので、それをまた還元して、地元のことを理解してもらって、地元のルールを守ってもらったりということにも使っていくというような、そういうサイクルをかくことが大事かと思います。

ちなみに、海の道構想というのも、決して県が何かをしますということではないと思っています。例えばいっぱい道路をつくりますとか、港をつくりますとか、そういうことをやってもお客さんが来るわけではありませんので、むしろそういう地元の人たちのおもてなしということがどう生かされてくるか、そのために連携みたいな、私は地域連携みたいなものが必要だと思うのですけれども、どういう方向で連携をしていくのか、あるいはその連携の場というのがなかなか難しいと思うので、そういったものをつくっていくとか、そういったことが県の役割だと思っていますので、そういうビジョンをつくって、みんなと一緒に取り組んでいけるような、そういう仕組みづくり、そういうことを今、考えているというふうにお伝えいただければと思います。

(森 川)

分かりました。伝えておきます。

(知 事)

ありがとうございます。

それでは、加茂川さん、お願いいたします。

(加茂川)

広島大学の総科学研究科1年の賀茂川侑享です。私が今行っている活動の内容と、気付いた点をお伝えできたらと思います。

この4月から呉地域オープンカレッジネットワークというのに参加させていただいて、それは四つの学校が協力をして呉市をもっと活性化させていこうというプロジェクトなのですけれども、今、抱えている問題というのは、そごうの7階に若者プラザというのがあるのですが、それがまだ呉市の人たちに知られていないというのと、あとどういうふうに活用したらいいのかというのがまだ不明なのです。なので、今、私たち10名ぐらいのメンバーと行政の方と一緒にどうやったら有効的に使ってもらえるかというのを考えています。なかなか違う大学の人と会う機会が少ないので、私はすごくいい経験だと感じていま

す。

二つ目は、卒業論文で呉市の国際交流について調べたのですが、一つ目は姉妹都市交流ということで、呉市は今、ブレマトン市と鎮海市と温州市とマルベージャ市というところと姉妹都市提携を結んでいて、ブレマトンと鎮海市とはすごく盛んに交流がなされているのですが、スペインのマルベージャ市はあまりうまくいっていないみたいで、それは、呉ポートピアができたのをきっかけとして交流が始まったのですが、呉ポートピアが閉鎖されて以降ちょっとうんとなっていて、自分自身1年間スペインに留学した経験があって、そのときにスペイン人の人と交流をしたら、すごく日本に興味を持ってくれたり、日本が好きだとか、行きたいという気持ちがあったので、是非マルベージャ市の交流を絶やさずにこれからもやっていけたらというのを感じました。

もう一つは、外国籍市民に対するサポートなのですが、今、ここの市民センターでひまわり 21 というボランティア団体があるのですが、それに参加させてもらって、外国籍市民の方への日本語指導とかサポートというものを一緒にやらせていただいています。外国籍市民の方が働くためには日本語というのがすごく要ると思うのですが、残業とか仕事が大変でなかなか来られないというジレンマというのを感じていて、来たらすごく意欲を持って勉強されているのです。というのを考えたら、やっぱりボランティアの必要性とか重要性をすごく感じているところです。以上です。

(知 事)

ありがとうございます。県政に対する提言をもし御用意されていたらおっしゃっていただいてももちろん結構です。

(加茂川)

提言というのはちょっと、行政の方も最初は姉妹都市交流から始まって、今はだんだん呉市に住む外国籍市民の方が増えているからそっちに移ってきているのですが、感じたのは、行政の方は要望がないと動きにくいみたいなことを言われて、実際、外国籍市民の方に意見を聞く場があるのかと言ったら、それもないし、彼らも多分時間がない。そういうのがうまくいっていないのを感じたのと、ボランティア団体の方も行政の方と一緒に協力してやっていきたいと、両方とも気持ちはあるのですが、まだすごくうまくいっているわけではないというのはちょっと感じました。

(知 事)

なるほど。ありがとうございます。本当に若いのと言うと怒られますけれども、いろいろな活動をされていて頼もしいと感じたのですが、特に外国人のサポートだとか、あるいは外国との交流という点ですね。これは今、広島としても真剣に取り組んでいかな

いといけない分野の一つだと思っていて、というのは、これまで海外との結びつきというのはどうしても東京経由だったり、そういうことが多いのですが、これから地方主権と言われていて、広島県としても地方主権を進めようと思っているのですけれども、そうになると、もっと直接広島の人たちも世の中を広く知らないといけないし、直接もっと外国の人にも来てもらって、それは観光という面もあるかもしれませんが、場合によっては仕事ということもあって、仕事もこれまではどちらかというといわゆる低賃金の労働という部分が多かったのですけれども、もっともっと知的な労働とか、あるいは農業、漁業とかもいいと思うのです。そういう人たちと交流しながら、あるいはこちらがまたそういう人たちを通じて外国でのあり方というか、日本の標準が世界の標準であるとは限りませんから、そういうこともやっぱり学びながら発展していく必要があると感じています。

行政がニーズがないと動きにくいというのは、これは確かにそういう面もあるのですけれども、半分ぐらいは言い訳をしているケースが多いと思うのです。もちろん全部、特に県の場合ですと職員の数も限られていますから、県内の声をくまなく拾っていくということは無理なのですけれども、でも、特定の政策などをするときには、どこにどういう事実がある、考えている人がいるということを積極的に拾っていくことが必要だと思っていて、そういうことは県庁の中ではよく言っていることなのですけれども、名指しで言えばどこかすぐ分かりますけれども、もし地元で言ってもらわないと動けないと言う人がいたら、おまえ、さぼるなどと言って怒ってあげてもいいのではないかと思います。

(加茂川)

呉市のほうも日本語サロンというのを開かれて、結構進めようとしているというのはすごく感じたのです。今まではお金を払ってボランティアを雇っていたのを、ちょっと難しいと言われたものを全部無料化して、無料化にすると経済的にも続くので、そういうことをやっているというのは行政としてもすごいと感じたのです。

(知 事)

それはいいことですね。よかったです。ありがとうございました。

それでは、原田さん、お願いいたします。

(原 田)

私は蒲刈町原田と申します。地域づくりというふうに関わるところに紹介してあるのですけれども、自治会のほうの会長をやったり、まちづくりのほうの会長をやったりということで、本当に忙しい。本職は農業なのですけれども、農業のほうはほかの人がやってくれて、私はあまり手伝えないというような状況です。これは個人的なことだからいいですけれども、私がまちづくりをやっている上で、いろいろな人が現役で働いておられるし、

また退職されているいろいろなところに勤められていて、いろいろな方がおられる中でまとめていくというのは非常に難しいというところがあるのですけれども、所詮地域づくりは人づくりかなと思っているわけです。そういう中で、先頭に立って動けば、みんながついてくるというところもありますので、結局自分がその忙しさを買っているということがあります。やりがいにもなっているのでもいいのですけれども、そこでいろいろなことを考えていく中で、先ほどから、私は蒲刈ですが、豊、豊島の方からも意見が出ておりましたけれども、やはり外から人が来てくれないと活性化はなかなか、地元だけではできないというところがあるのです。そうすると、どうしても話の終わりに橋がただになれば、人も来てくれようがというのが話題になるのです。広島県も有料道路とかいろいろなものがあるから、安芸灘だけをただにするということには、これは分かります。先ほど言われたように90億円といたら大変なお金ですから、私などが思うのに、呉市にも幾らか出してもらって、県にも出してもらって、大部分は国のほうからというような形がとれないのかと思っております。

それはそれとして、島嶼部には歴史とか文化というのが非常にたくさんあると思うのです。今日、知事さんも下蒲刈から御手洗のほうまで視察していただいて、本当にありがとうございます。私は蒲刈の者ですから、藻塩というのがありまして。

(知 事)

おいしいですね。

(原 田)

今日おいしくいただいておられて、私もうれしく思いました。そういう中で、知事さんの左側のほうに置いてあります桂の滝という、名水ということで、実は一昨年の平成20年6月25日に広島県からの推薦もいただき、環境省から名水百選に選ばれたものです。

(知 事)

これは島の水ですか。

(原 田)

島の水なのです。昭和の名水百選がありましたけれども、島で百選に選ばれたのは少ないのではないかと思います。

(知 事)

そうですね。島は水が少ないですからね。

(原 田)

だけれども、島が非常に深くて、この桂の滝というところは夏でも水が枯れることがないというようなことで、こういうものを認定してもらったおかげで、土日になればいろいろな人が来て水を汲んで帰られております。来てくれるのはいいけれども、どれだけお金を落としていってくれるのか。恐らく共通なことはお金ではないかと思うのですけれども、観光客は来てくれるけれども、ごみだけはちゃんと忘れずに置いていってくれるということもありまして。

(知 事)

さっきのマナーの話と同じですね。

(原 田)

はい。マナーの問題です。いろいろあります。ということで、名水なるものはどこにもあると思うのですけれども、井戸の水でも名水は名水です。この桂の水は物語がいろいろありまして、それで認定していただいたのではないかと考えております。冒頭にもお話ししましたけれども、島には非常に歴史とか文化がたくさんありますので、これを生かしたまちづくりをしていかなければいけないだろうと思うわけです。呉市さんにもお願いすることなのですけれども、小さな文化財でも県とか市とかいうところがこれを大きく取り上げて、市の指定にさせていただくことはできるのですけれども、県の指定とか、県のほうも積極的に、この島嶼部に限らず取り上げていただきたい。そういうことが広島県の観光につながるのではないかと考えております。

観光といいますと、島嶼部、やはり限られたものがございますので、やはり地域が連携していかないとうまく機能しないのではないかと考えています。だから、呉市としても恐らく御手洗とか今の下蒲刈だと蒲刈の藻塩だとか、いろいろなところがありますけれども、これを大和ミュージアムとドッキングさせる。あるいは、先ほど知事さんが言われたように宮島とドッキングさせるというようなことを是非進めていただきたいというのがお願いです。多分知事さんがおっしゃる瀬戸内 1 兆円構想の経済効果はここから起こり得るのではないかと考えております。

先ほども観光のことを言いましたけれども、先ごろ価値観が多様化してきているものですから、重複するわけなのですけれども 1 カ所だけではやっぱりうまくいかないと思います。

それからもう一つ高速道路の無料化というものが最近よく言われているのですけれども、高速道路の無料化、安いのは結構なのですけれども、安芸灘は安くせえ、高速道路は安いのは困るというのは矛盾しているのですけれども、我々島に住んでいる者にとっては、高速道路が安くなることは交通体系が変わってくると。陸・海・空と言ってもいいと思う

のですけれども、バランスのとれたものじゃないといけないと思うのです。どこまで行っても 2,000 円だということになりますと、瀬戸内海から船がなくなる。貨物船がなくなる。既にフェリーはあちこちで廃業せざるを得ないような形になってきておりますので、ここからは十分考えていただきたいと思います。

それから、私がアンケートの中で提案させていただいていた中で、これは県に要望することではないのですけれども、知事さんに聞いていただきたいのは、先ほど言いましたようにまちづくりをしていく上において、非常に島嶼部は高齢化している。若者がいないということなのです。例えば最低でもお盆と祭り、これは規模は大小ありますけれども地域としてやっていかなければいかんわけです。若者がいないから、例えばみこしを担ぐのも、いない。どこかから帰ってきてくれんかの、孫が帰ってきてくれんかのと本当に思うわけです。

先ほど県ではないと言いましたが、国にお願いしたいことは、何ヵ月か前に連休を分散するという話がありました。これを 8 月とか、あるいは 10 月とか、そういう月にもう 1 日、2 日ぐらい増やしてもらおうような働きをしていただきたい。

(知 事)

休日を増やすということですか。

(原 田)

ええ。移動も含めてですけれども、増やしていただきたいというようなお願いを是非国のほうへ働きかけてもらいたい。

というのが、みこしを担いでくれ、何々してくれと言っても、会社が忙しいけ帰れんとか、どうか言って断られるのです。そうかといって、じいちゃん、ばあちゃんは祭りは派手にしてくれ、ええがにしてくれと言われる。そんなの孫が帰ってからやってくださいやと逆に言うわけですけれども、息子は忙しいけ、よう帰ってこん。孫は忙しいけ、よう帰ってこんという事情があるのです。そういうようなことで、ふるさと帰省の日を設けるとかいう形で思っているわけです。

それから、話はダブるのですけれども、教育、文化とか歴史、先ほども言いましたようにもっと目を向けていただいてやっていただきたいということを重ねてお願いして、私の話を終わりにいたします。

(知 事)

ありがとうございます。ちなみに橋の話は何度も出てくるのですけれども、今、回数券を使ったら市の補助も含めて 464 円になるのですけれども、これは皆さんそういう形を使っておられるのですか。

(原 田)

島嶼部の方は大分それを利用しておられると思うのですが、回数券というのは100枚買うということが条件になっていますので、外から一時的に来るのに回数券は買わずらいということになると、乗用車の場合700円で、往復1400円かかるということになります。

(知 事)

分かりました。ありがとうございます。

若者が戻ってくるというのは本当に大事なことだと思いますので、それはいろいろな意味で、地域間の働きかけもやっつけらっしゃると思いますけれども、魅力あるということが大事なので、その魅力づくりというのにみんなが一緒になって取り組まないといけないと思います。

(原 田)

是非お願いします。

(知 事)

ありがとうございます。

それでは、山口さん、お願いいたします。

(山 口)

音戸町早瀬で八百屋をしております山口です。よろしく申し上げます。気持ちが舞い上がっているので、読ませてもらいます。

消防団長として地域住民と協力しながら防災活動や地域の事業に積極的に参加しています。

その体験から防災と地域おこしのための道路整備というタイトルで、平素感じていることを提言して述べさせていただきます。お願いしていいのですよね。

(知 事)

もちろんです。

(山 口)

音戸町の道路は、周囲を国道と県道で結ばれていますが、道路の幅が狭くて、カーブが多くて、大型トラックやバスなどがカーブで他の車と出会うと渋滞をして、防災活動に支

障を起こすことがたびたびあります。消防活動のために、災害のときにおける緊急出動などを考えると、早く整備してほしいというのが市民の願いであります。ときに防災活動に従事している者にとっては、切ない願いになっています。県道は道路が十分整備されていないし、自転車道路はもちろんありません。歩道や自転車道路が整備されることによって、一般車両の交通もスムーズになり、ウォーキングに親しむ人たちの願いがかなえられ、健康づくりにも役立つと思います。防災と地域おこしのために道路整備をお願いしたいと思います。以上です。

(知 事)

ありがとうございます。道路はやっぱり日常に使うだけあって、ないと本当に困るというのはよく分かることだと思うのです。確かに音戸ないしは倉橋島全体は比較的遅れているという印象も私はあるのですけれども、今、順次、特に危ないようなところ、通学路も含めて、そこからだんだんと進めているところではありますので、なかなか一遍にはいかないかもしれませんが、着実に順次やらせていただければと思っております。

あと、今度第2音戸大橋もできます。我々としてはあそこの渋滞解消というのは優先順位としては高いと思って第2音戸大橋を進めているのですけれども、それプラス、今おっしゃったような地元の生活道路ということで着実にやらせていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

(山 口)

ありがとうございます。

(知 事)

ありがとうございます。

それでは、渡辺さん、お願いしてよろしいですか。

(渡 辺)

はい。私は下蒲刈町でまちづくり協議会の会長をさせていただいております。テーマを四つほどお願いしたいのですけれども、時間の都合もありまして、先ほどから橋の料金の問題はたびたび出ているので、私も、料金を幾らか安くしていただけたら観光のお客さんも助かるのではないかという声をたくさん聞いているわけです。できればそれも一つお願い。

もう一点、県道 74 号線、安芸灘大橋をおりたすぐなのですが、そこに県の土地なのですけれども、左側は海のそういったところにまちづくりで桜の木を植えさせてもらっているわけです。一遍に植えるということについて、呉のほうからの予算が 80 本分ぐらいし

かないわけです。それを地域の消防団とか女性会の人にボランティアで出てもらったりして植えているわけですが、80本ぐらいでしたら、広い土地ですから5年ぐらいかからないとなかなかできないもので、今年もそれを植えようと思ったら、その予算が一つの利用に対してはおりないということをおっしゃったので、これはおかしいと思ひまして、またそれより道路の74号線の反対側に松が何本か植えてあったわけですが、これが松食い虫によりまして大分枯れたわけです。草を刈るだけでは意味がないのではないかと申したのです。ここにも、両方桜の木を植えてもらったら、これは私の力だけではどうしようもできんから、何本か県のほうでお願いできたらと思ひます。1,050~60本植えるということではないかと思ひます。反対側のほうは私たちがボランティアで木を何かの予算で呉市のほうからお願いして植えようと思ひますけれども、私も高齢化しているもので、一遍に植えるわけにはいかない。そうかといって、何年も、5年も6年も待ちよつたのでは私の年がもたないのではないか。だから、ボランティアも何でもそう年ではいかんし、お願いできないかというのが一点です。

もう一つ、私どもはガーデンアイランド構想といって、もともと庭園化しております。一つの美術館、松濤園を中心に1年間に何十万人という観光客に来てもらっているわけですが、路面が県道で石畳になっているわけです。それが古くなると、でこぼこなところが出てきて、この修理をお願いしたら、金がないとか言われる。観光の人が何人が倒れた人があるのです。全部ではないのですが、ところどころにおかしいところが何箇所かあるのです。これをお願いしたいということが一点。

その松濤園の両へりに松の木が何本か植えてあります。松濤園美術館ということは松をメインでお客さんに来てもらっているのです、松だけは、ほかのところは松食い虫でよく枯れるからあまり必要ないけれども、ここだけは松をメインでやっているから、松を植え替えてもらうことはできないかと思ひまして、これをお願いしたいのです。その松は普通の松ではなくて、よい松なので値段が高いのです。美術館とか松濤園の歴史の古いところに植えるのですから、5~6本ぐらい植えなければいけないのではないかと思ひます。これが一点お願いしたいということです。

毎日何百人というお客さんが来ておられると、やっぱり設備もかなりよくせんと、枯れたり松食いがあると感じがよくない。今までの松が、去年、一昨年からどういふわけか枯れ始めているのです。山もかなり枯れてばっさりいきましたけれども、景観としては緑がなくなったということで、これは何とかならないものかと村の人が言っているわけです。しかし、これは少々のことではできないから、できればこういうことも何かいい事業がないかとお願ひしているわけです。緑がなくなると、山が真っ赤になってしまつて、うちのところは松も売りものでやっておりましたから、山も、道路も、美術館、各施設ですよ。そういうものがなくなつて、山のほうはなくなるのはしょうがないから切るかほかの緑を植えなければしょうがないけれども、文化施設だけはどうか植え替えないと意味がないの

ではないかと思ひまして、そこの今の松濤園と美術館は県の松なのです。あとは市の松もあるし、県の松もあるし、いろいろあるのですけれども。

(知 事)

県の松というのは。

(渡 辺)

県が植えたのです。県道へ植えてあるわけです。その隣に、平行して美術館と松濤園があるわけです。それが枯れると虫食いの葉が、人間の歯がもげたような格好で、観光客にちょっと格好が悪いですね。それでお願いしたいということなのです。

もう一つ、石畳もさっきお願いしたように是非とも、観光客はどっちかといったら高齢の年をひろった人がよく来られるのです、バスで。安くつくのかどうか知りませんが、そうすると、歩くのに一つでもおかしい石があると危ないということで、お願いしたい。是非とも直していただければ幸いです。これは県道です。以上で私のお願いということで、できればお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(知 事)

ありがとうございます。橋の料金の話は繰り返しになるのですけれども、松にしても石畳にしても、これは恐らく道路の管理、維持修繕費用の一部として取り扱うことになっていると思うのです。そういう意味では、また維持修繕の中でも優先順位というか、いろいろまた御相談させていただきながら進めさせていただければと思います。ありがとうございます。

(渡 辺)

それと、桜の件をできたら。

(知 事)

はい。桜もですね。

(渡 辺)

ちょうど橋からおりたすぐが、橋の目玉として、4島の一番目玉なので、そこを桜の木で埋めたら、お客さんが来て、橋の上から見たらこの島はええとこじゃなというのを目当てで、ボランティアで植えているわけです。けれども、私だけでは限界で、高齢化しているもので、どうにもならんのでお願いしたい。

(知 事)

今、できるかどうか分かりませんが、それは御意見としてはお伺いしましたので。

(渡 辺)

よろしくお願いします。

(知 事)

ありがとうございました。

自由討論

(知 事)

皆さんどうもありがとうございました。これから3時半ぐらいまで全体での意見交換をさせていただきたいと思うのですが、今、かなりの方に橋の料金のお話をさせていただいたので、それについて御意見をいただければと思うのですが、住民の皆さんの生活の上での負担という問題と、それから観光客の皆さんが来やすいようにという観点と二つあると思うのですが、観光客の観点から見た場合をお伺いしたいのですが、例えば香川県に直島という島がありますよね。これは福武書店のベネッセの福武さんが大分投資をして美術館をつくったりされているのですが、それだけではなくて、島全体の皆さんがいろいろなことをやられて、御自宅を少し改装されたりというのも含めて、島全体が美術館みたいになっているのですが、これはむしろ不便なほうがお客さんが来るというのです。だから、橋はかけたくないとおっしゃっているのですが、いや、それはそれだけいっぱい投資したからそうじゃないとか、いろいろあると思うのですが、こういう御意見は実際どう思われますか。

(原 田)

船は確かに風情がありますよね。車はすっと通り過ぎるという感じで、船には客室に入ったらいろいろな人と出会うことができますよね。というところが、やはりよそから来ても一つのおもしろさがあるのではないかと思うのです。それを毎日のことにすると、やはり船というのは時間が決まっているものですから、夜、入っていけない、出ていけないという不便さは一面あると思うのです。その風情を楽しまれるのではないですか。

(知 事)

そうですね。ありがとうございます。

(渡 辺)

やはり美術館が、普通のつくり具合でない、特別なものですから、船とは関係せずに行くのです。じゃが、あれだけの金をかけると言ったら普通の人ではちょっとできないです。夢のようなやり方でやっておりますから、それが目当てだから、船が高かろうが、安かろうということではないと思います。

(知 事)

なるほど。逆にいうと、それだけお金がかかっているかどうかは別にして、実際直島はお金がかかっていると思うのですけれども、魅力あるものがあれば、そこは橋だろうが、船だろうが、お金がかかろうが、かかるまいが来ると、そういうふうにお感じになられますか。

(渡 辺)

はい。そういうことだと思うのです。やっぱり特別に、日本でも有名なぐらい、お金がかかっているのではないかと思います。

(知 事)

設計をされたのは安藤忠雄さんですね。そういう特別なものはありますよね。

(渡 辺)

絵でも一つが2億5,000万円とか3億円とか、普通のところでは置かれんですよ。うちらにも美術館があるのですけれども、なんぼ高いと言っても5,000万円。なんぼも変わりますよ。じゃが、学生などがものすごく多いらしいです。あそこは年間30万人が行っているらしいですから。

(知 事)

直島の魅力は、美術館はもちろんあるのですけれども、美術館目当てというわけでもなさそうなどころがありますよね。

(渡 辺)

らしいですね。なんぼか古いものも修繕して。

(知 事)

まち全体の雰囲気というか、おもてなしというか、あるいは、コンセプトが統一されているとか、雰囲気が統一されているというのですか。

(渡 辺)

そうですね。だから、そういうのがあるのかも分かりませんが、あそこは特別ですね。あれだけの船で渡って、フェリーでお客さんがいるということは。

小豆島でも、私も一回伺ったのですけれども、休みのときにはお客さんがあの大きいフェリーでいっぱい渡っておりました。何万人というお客さんです。やっぱり小豆島というのはそういう珍しいものがものすごく多いですから、それを目当てで来たのではないか。地域の人が何年かいろいろ研究されてやったのではないかと思いますね。オリーブというのもかなり健康食品ということで今ごろは有名になりまして、私どももミカンはだめじゃけ、オリーブを植えたらええのではないかと私も植えているわけですが、去年から 400～500 本植えて、地域の活性化にしたらと思うのですけれども、ただ一つ悲しいことに、あれをつぶす機械が安くても 300 万円、農家で 300 万円かけるとかなりの資本なのです。前に倉橋のほうとか能美のほうにかなり大きいことをやられるというのを伺ったのですけれども、あそこがどれぐらいの程度でやられるか分からないのですけれども、かなり大きいのをやるというのを。

(知 事)

そうですね。商業ベースでやろうとされていますのでね。

(渡 辺)

じゃが、今の時点では、農家としてはミカンもあまりよくないし、オリーブもいいのではないか。日本の生産では 3%ぐらいしかないらしいです。それと健康食品の面で、それらの機械の援助を県のほうでできるようならお願いしたい。農家の人みんなに宣伝しているわけです。みんなに植えてもらって、一緒にみんなで島の名産としてやったらどうかということで、今年から始めたわけです。だけど。

(知 事)

すみません。ちょっとほかの方の御意見もお伺いしたいので、よろしいですか。今のテーマで橋の料金と観光客の話、ほかにどなたか御意見はありませんか。

(楠)

はっきり言いまして、島に魅力がないので橋代が高いと言われる。例えば私らが沖縄に行くとき、5 万円出して同じ島に平気で行くわけです。それはやっぱり 5 万円の価値があるから行くわけです。だから、私は高いと言いましたが、1,500 円もよう出す価値がないから、結局、お客さんに最終的には来ていただけないと、私は判断しています。

それは、まだ私らの PR とかいろいろなことが足りないので、1,500 円の価値を認めていただけていないのが現状だと思います。魅力さえあれば、はっきり言って、沖縄じゃなくて、ハワイのほうへ行く人もいるのですから、日本人にはいっぱいそういう人がいるので、何でこの瀬戸内海に来てくれないかと言ったら、1,500 円以下の価値しかないということに来ていただけないと私は冷静に判断をしております。

それと、橋がかかる前に、私は各町の観光客の動態数というのを調べたのですが、結局、蒲刈町だけは藻塩体験というのがあるので、ずっと 20 万人から 30 万人来ていらっしゃるのです。下蒲刈は橋がつながったとき 3 倍観光客が来られて、それからは減っています。瀬戸田も橋がかかったとき 1 年だけ 3 倍に増えて、それからは減っています。私はそういうふうになるということで、何とかしないといけな思いましたが、結局、よその島と一緒に橋がかかったときの 1 年だけの効果で、2 年目、3 年目は元に返りつつあるのが現状でありまして、そこで何とかもう少し知恵を使わないといけなと痛感はしております。以上です。

(知 事)

ありがとうございます。私は 1,500 円の価値は十分あると思いますけれども。御手洗にしても、例えばどこかの都会の昭和何たら再現とかみたいところに千円とか何百円とか払って見に行くことを考えたら、それこそ御手洗とかは今を息づいているわけで、実際に人が住まわれて、すごくきれいになって、私は 1,500 円どころかもっともっと価値はあると思うのです。

瀬戸内海全般で言えることなのですからけれども、かといって足りないものもいろいろあると思うのです。先ほどおっしゃったトイレだとか、島の途中にもほとんどトイレがないので、ドライブをしていると子どもとも困りますよね。というのは、私も幼い子どもがいて実感したりするのですけれども、そういうものは着実に工夫しながら整備していかないとはいけなと思います。

ほかの方、どなたかありますか。

(北 村)

僕も知事さんと同じ意見で、魅力はすごくあると思うのです。知らない人がまだたくさんいるのだと思うのです。橋がつながったから行ってみようかという人が来て、こんなものかと帰る人がいるかわりに、すごいところじゃねと思って帰る人もいると思う。そういった掘り起こしをどんどんしていかにといけなと思うのです。やっぱりそこにいるとその魅力はあまり感じないのですけれども、僕が最初に言わせてもらったように、多島美とか海のきれいさ、自然の豊かさというのがすごくあると思います。実家が豊町なのですけれども、親がまだいるので月に何回か農業をしに帰っております。橋を使って帰るのですけ

れども、昔はフェリーに乗って片道 2,000 円ほど出して、往復 4,000 円で帰って、そのことを思えば、軽自動車で 550 円、割引きを使って 300 なんぼですから往復 700 円ぐらいだから、やっぱり助かっております。だから、島にいる人も橋代をただにしてくれとか、安くしてくれとか言いよるけど、フェリーが通っていたときには橋をつけてくれと、金がかかってもええけ、橋をつけてくれ。便利がよくなると言いよったんじゃけど、やっぱりのどもと過ぎたら、橋代が高いけまだ安くしてくれとか。島の人は割引きがあるし、島の外から来るというのは、それだけまだ魅力も知らんし、魅力をまだ發揮せんといけんと思えます。僕は橋がかかってすごく助かっております。

(知 事)

ありがとうございます。そういう意味では、本当に PR というのは大事ですよ。

あともう一つ、確かにまた来たいと思わない方、全くだめな人は別なのですけども、すごいと思われる方、また来たいと思われる方、中間ぐらいの人はもっといらっしやって、そういう人にもっと来ていただくような、もちろん、食べるもの、みたいものということもあると思うのですけれども、もてなしというか、私は御手洗がすごいと思うのはそういうところだと思うのです。もてなしの経験ですよ。それをしてもらうのがすごく大事ではないか。もてなしがあったら、毎年は来ないかもしれないけれども、2年に一遍ぐらい、今日は天気がええけ行ってみようかと、少なくとも地域の方はそういうふうに使われたり、あそこは行ってなかったからもう一遍行ってみようかと、そういうふうになるという気がしています。

(北 村)

地区の知り合いを御手洗に 5~6 回連れて行っているのですが、行くときの時期が違っていると、それなりの魅力があるし、今年はミカンの花がちょっと遅いですよね。遅いですがけれども、ミカンの花の香りがしたりとか、いその香りとミカンの香りが混じって何とも言えないようないい雰囲気だと思うのです。

(知 事)

そうですね。御手洗の話がよく出ていますけれども、私もいろいろなところにいるいろいろな魅力があると思うのです。野呂山の景色もそうですし、呉全体で言ったら、もちろんミュージアムもあるし、れんが通りとかも昭和風にしたり、皆さん努力をされてやっぴらっしやって、そういうところもいいと思います。そういうことを少しずつ力をあわせていくということが大事であるし、こうやって今日回ってみると必要だと思いました。おっしやったようなミカンの花、ミカンがなっているところもきれいですよね。オレンジ色がずっとね。ああいうのもどんどん PR していくというのは大事ですよ。ありがとうございます。

いました。

そうしましたら、時間も迫ってきましたので、この際、こういうことを聞いてみたいということがあればお願いいたします。

(原 田)

呉市とは直接関係ないのですが、福山の鞆のところに橋をどうとかと、知事さんも非常に難しい選択になるのではないかと考えているのですが、私個人的には、歴史とか文化というのはお金を出してつくれるものではない。一遍壊したら元に戻らないと常々、我々のところも小さな文化、お寺とかいろいろなものがありますけれども、壊したらもうだめだということで、金を出せばものはいくらでもつくれる。今の時代だったら特にそうだと思うのです。鞆の浦を橋でどうとかとということは、私はもうこの問題になる前から、鞆へ何回か行きましたけれども、これは残さにやいかん。海底トンネルか、村側をトンネルでも抜くか、何か方法を考えて残してもらいたいと思っておりますのでお願いしたいです。

(知 事)

歴史、文化を大事にするということですよ。それはおっしゃるとおりだと思います。その点については、橋をかけたいとおっしゃっている方も、かけたくないとおっしゃっている方も実は共通しているので、橋をかけたいという方々が歴史や文化を大事にしたいと言っているかということ、必ずしもそうではなくて、そのためにかけたいとおっしゃっていたりするので、なかなか難しいことがあるのです。これはしっかりと、これもやっぱり地元の皆さんがどういうふうにお感じになるかということが非常に大事なので、それをしっかり話し合う協議の場をつくってやっておりますので、その行方を見ていただければと思います。ありがとうございます。

その他、何かございますか。

(○ ○)

湯崎知事は昨年 11 月に就任して以来、いろいろな各地で県民との会話をしていますけれども、テレビとかニュースで拝見させていただいて、私はとてもいいことだと思っています。それで、意見交換をたくさんしている状況で、どのように県政に反映していくのか、どうすれば進捗状況というか、事業化に向けて知ることができるのか教えていただきたいと思っています。

(知 事)

これは冒頭にも申し上げましたけれども、こういう対話の集会から、何か具体的な事業を起こそうということをやっているわけではないのです。中にはそういうものが出てくる

かもしれませんが、そういうことではなくて、今日のお話でも地域の魅力をもっとPRしていくということに対して、では、県がどういうふうにかかわっていくべきか、あるいは、ボランティアの力を集めるということが地域づくりに非常に大事なだけでなく、そのかかわり方とか、今のお話をお伺いしても市とのかかわりもあるし、県はそういうふうにかかわれるのかとか。そういうことを、一つの御意見で何か動くということではなく、皆さんの意見をためていくことによって、これはこういうことだったのか、やっぱりこういうふうにしたほうがいいのか、そういうふうにつながっていくものだと思っています。ですから、味噌樽と言いましたけれども、あるいはぬか床と言ってもいいかもしれないのですが、少し時間をかけながら、こういうものをためていくと何があるかという、例えば全く別のところで事業を考えたり、何か政策を考えているときに、これはあのときにこういうふうにおっしゃっていたことだとか、あんなことをおっしゃっていたからこういうことが大事なのかとか、そういうふうに効いてくるものなのです。そういうふうには私は活用していくのが基本だと思っています。ありがとうございました。

それでは、時間になりましたので、どうしても最後何かというのがございましたらおっしゃっていただいて、特になければこれで。

(原 田)

もう一点、私は広島県を非常に大事にしたい、呉市を大事にしたい、蒲刈を大事にしたいという考えの中で、今、道州制の問題が、今なくてもいずれ浮き上がってくると思うのです。大きくなることは一面いいことなのですけれども、末端が、たこのしっぽの先みたいところが切り捨てられてだんだんと無視されるというか、そういうことになりかねないところが一つあるので、そういうことはないように気を配っていただきたい。

道州制というのは、広島県がやはり中国地方では非常にイニシアチブをとってやってくだらうと思うし、これからもやってもらいたいのですけれども、四国も一緒に入れた場合、州都はどこに行くのかというのを絶えず私は興味を持っているわけです。そうするためには、広島県が積極的に、簡単なことではないでしょうけれども、人口も減らないような方法を取りながらやっていかないと、岡山のほうに持っていかれはしないかというふうに危惧しておりますので、是非頑張ってくださいと思います。

(知 事)

ありがとうございます。本当に地域なりコミュニティーが切り捨てられるような道州制だと私は意味がないと思っていますので、むしろそれを大事にするために今、逆にいうと、道州ではなくて国がそういうことをやっているのです、それをもっと地域に引っ張ってくるための道州制だと思っています。県が道州になるのではなくて、国から引っ張ってくるものだとしていただければと思います。それに向けて今、頑張っています。よろしく

お願いします。

閉 会

(知 事)

それでは、お時間になりましたので、ここで締めさせていただきます。

改めまして、本当に皆さんありがとうございました。お忙しい中、こうやって御参加いただきまして、事前の準備も含めて、大変だったと思いますけれども、本当に貴重な御意見を率直にいただきまして、本当にありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

また、傍聴の皆様も長時間にわたりまして、都合 90 分と 30 分で 2 時間にわたるのですが、本当に長い間お付き合いいただきましてありがとうございました。

途中いい御質問をいただいたと思うのですが、これを県政に役立てていくというのは、本当にこういうことの積み重ねが私は大事だというふうに思っております。これで急にこれする、あれするというよりは、もちろん県庁のみんなとも共有していきまして、お考えになっていることが本当にどういうことなのか、直接それを肌身で感じて、そして、長い時間にわたって県政に反映していくというふうにしていきたいと思っておりますので、是非よろしくお願いします。

そういう意味では、私が本当に信じているのは、県庁ないし、私は知事ですけども、知事が何かをやったからといって世の中が変わるわけではない、あるいは県庁が何かやったからといって世の中が変わるわけではないと思っております。どういうことかと申しますと、県民の皆様お一人お一人が、もちろんその場合は個人という意味だけではなくて、例えば地域のコミュニティーのいろいろな活動もありますし、あるいはNPOだとか、あるいは企業、これが変化していったら、あるいは新しい方向に向かっていったら、初めて広島県は変わっていくし、よくなるものだと思います。

そういう意味でも、今日御参加いただいた皆さんは、いろいろな場面でのリーダー的な役割を果たしていただいている方々だと思いますので、引き続き皆様の日常の活動の中で御活躍をいただいて、それが最終的には住んでいらっしゃる地区だとか、あるいは呉市、さらに広島県の活性化や変化につながると思っておりますので、是非よろしくお願ひしたいと思います。本日は本当にありがとうございました。